



JAMCA ニュース

No.85

2015 年 4 月 1 日

発行
協会事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

編集事務局

車大好き人間集まれ

岡山自動車大学校 学園長 原田 三代治
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事車大好き人間の皆さんを
大歓迎します。

毎年の入学式の決まり文句である。高校の経営にかかわった時「手に職をつける」学校づくりをめざした。施設・設備で手の届かない機械科でなくカーブームに乗った自動車科をスタートさせた。

高卒での3級から、県内になかった2級をめざす2年制の専門学校を設立。それが今の4年制の大学校に発展してきた。中学生への募集では「7年間の自動車一貫教育です」「国家資格は100%とらせませす」「地元には必ず就職できます」が売り言葉だった。少人数の成果が発揮され、だんだん認知されてきた。

年寄りと車

80 才になるまで運転してきた車が10台。中古の外車からはじまり、国産の中型・大型そして小型、ロータリー又ディーゼルありで車大好き人間の一人である。

車は毎年進化してきている。いつのまにか自分の身体機能が車の機能アップについていけなくなった。

最近、夜の運転が大儀になった。対向車、後続車のライトがまぶしすぎる。横を走っていた自転車にヒヤリとさせられる。昼間でも、高速の標識を見すごし入口、出口であわてる。まだ逆走した経験はないが、「人間は間違いを犯す存在



だ」と自身をなぐさめているが危なくてしょうがない。「いつ運転をやめるか」田舎暮らしの必需品として、なかなか手放せない。高齢者免許更新時に不合格になればと半ば期待していたが「気を付けて運転して下さいね。」と逆にはげまされてしまった。結局、危機管理は自己判断と自己責任にゆだねられているようだ。

ロボット車の出現

「人間のハンドル操作の必要ない自動運転車を一般道で走らせる実験」が日本でもニュースになった。そのうち人工知能を持った車も出てくるという。目的地へ乗って降りるだけの移動手段が車の役割となるのか。それにつれ車に積み込む技術は機械から電子機器に急速に変わりつつある。追突をさける「アイサイト」が軽自動車にもついてきた。整備士が電気・電子技術を体得することが要請されている。整備士の仕事がスキャンツールを使いこなし故障診断し、部品交換をするだけでいいはずはない。車

を持ちたがらない若者につづいて、整備の仕事にあこがれと充実感を持つ若者が減っているのが事実だ。どうすれば解決できるか。年寄りの世迷い言を書き残してみよう。

できたらいいな

実業教育は個人の教育投資というより国の将来への投資と考えられないか。各省庁の大学校のように学費負担を心配させず、車整備のエリート教育機関ができないだろうか。人の役に立ち、人に喜ばれる仕事にあこがれる若者は多い。それぞれが地域でカー・ドクターとして深い共感性を持って車と人を結びつける。そのため、結婚ができ、たまに子供と遊べる労働環境と待遇改善がすすんでいかねばならない。年寄りに「運転するな」というより狭い田舎道でも一般車と共存できる手軽なシニアカーの開発もまたれる。さまざまな人が、さまざまな地域で好きな仕事を天職として、天寿をまっとうできたら日本は少子高齢化対策のグローバルモデルになるのではないかな。

CONTENTS

2 面	入学者の現状 「ゆとり教育から脱ゆとりへ」
3 面	我が校自慢
4 面・5 面	燃料電池自動車は普及するか?
6 面	協会トピックス
7 面	活躍!! 卒業生・地区通信
8 面	私の教材活用・お知らせ・ 編集後記